



アジアにおけるSRIと年金 要約

アジアの高齢者人口の増加は急速である。1985年時点で世界の60歳以上の人口に占めるアジアの割合は28%であったが、その割合は2050年にはその2倍以上の**58%**になるとみられている¹。アジアの高齢化の進展は比率でみても絶対値でみても世界で最も早く、したがって「世界的な社会保障システムの問題」の大部分はアジアの問題なのである²。

それと同時にこの地域の環境問題は「広範囲で、悪化の一途をたどり、これまで議論されてこなかった。³」アジアの大都市の住民にとって環境汚染の問題はお馴染みのものとなっているが、これに加えて水資源の枯渇や木材、漁獲や鉱物等の資源の過剰消費など目に見えにくい問題も存在する。このような問題は気候変化に潜在的に大きな影響を与える。

このような傾向はアジアの将来に暗い影を落としている。このレポートはなぜ前者の解決策が、後者の大部分の解決策にもなるのかを明らかにしている。我々はアジアの社会保障問題と環境問題に関する調査を行った。特に注目したのは日本、中国、韓国、台湾、香港、フィリピン、マレーシア、タイ、シンガポールおよびインドネシアの10カ国である。また、我々は社会的責任投資（SRI）がこれらの問題の解決に向けて果たすことができる役割についても検証した。その主たる結果は以下の通りである。

- 大多数の**SRI**ファンドは従業員の職場環境に関する問題の一つとして年金支給の適切性について質問を行っていない⁴。この問題は他の地域においてはそれほど重要性の高くない問題かもしれないが、アジアにおいては優先的に考慮されるべき問題である。
- アジアにおいて**SRI**はまだ年金運用における投資の選択肢の一つとなっていない。

そのため我々は次のような行動をとることを推奨します。

1. 年金制度に関する質問

我々はSRI投資家やリサーチ団体が以下の質問を行うことを推奨します。

- ★ 企業がどのような年金制度を運営しているのか？
- ★ 企業は年金支給を改善するために法律で定められている以上の対策を講じているか？
- ★ 企業の年金制度はすべての従業員が恩恵を受けることができるか？もしそうではないのならどのような分類の従業員が除外されているのか？パートタイマーは恩恵を受けることができるのか？
- ★ 企業は年金基金を解散していないか？
- ★ 年金基金の資産運用にあたって不正行為を示す証拠がないか？
- ★ 企業の年金基金に積立不足はないか？それは監査人によって検証され、公式に確認されているか？
- ★ 企業は確定給付型から確定拠出型へ年金制度を変更したか？もしそうであれば、従業員はどのような制度の変更をもたらす影響を理解するのに十分な教育を受けたか？

2. 持続可能性への投資

SRIの年金選択肢は企業の長期の業績と成長に焦点を当てた投資を促進する。SRIを通じて現在の社会保障問題の解決を手助けすることは、アジアの金融市場や企業により強固な組織的支援を行おうとする他の対策を補強することにつながる。我々は以下の行動を推奨します。

- ★ アジア各国政府、特に整備された年金制度を持つ政府が、年金基金に対して**SRI**の側面を包含した投資原則の宣言（**SIPs**）を法的要求事項として求めること。
- ★ 年金担当者、受託者およびそのアドバイザーがより**SRI**に習熟すること。また、国内外に影響をもたらす彼らの投資戦略の長期的な責任を考慮すること。
- ★ 年金受託者が年金基金にとって適切な**SRI**方針に関する情報を要求し、その基金に適した選択肢を選択すること。
- ★ 確定拠出年金のスポンサーが**SRI**の選択肢を提供すること。また、特定の選択肢がなされない場合には**SRI**を株式投資の基本的な選択肢とすることを検討すること。
- ★ 年金プランのスポンサーが受益者の長期投資の目的や**SRI**に関する考え方を調査することを検討すること。
- ★ 年金プランのスポンサーが受益者に対してファンドのコーポレート・ガバナンスや**SRI**方針およびその実践についての情報を提供すること。

SRIのグローバルな潮流

今やSRIは欧米においては主流の投資商品であり、SRI商品は21ヶ国以上で発売されている。投資収益と同時に社会・環境・倫理的な関心事項を考慮して投資されている資金は約2.4兆ドルに上る。アジア地域においてはオーストラリアが最大の市場で、139億オーストラリアドル（約77億ドル）がSRI方針を持つファンドに投資されている（2002年6月30日時点）。軟調な市場にあつて資産運用総額全体が0.1%減少するなか、SRIの資産総額は1年で32%の増加をみせた。日本では現在の市場価値で約700億円が11のファンド（オプション含む）に投資されている。その他のアジアでもいくつかのファンドが昨年発売され、また現在計画中である。

年金基金が持続可能な成長を推進する手段としてのSRI

経済を成長させる最も効率的な方法はリニューアブル可能な経済を構築することである。これは持続可能な投資のポイントである。SRI方針を持つ年金基金は持続可能な企業に資金を供給し、企業の戦略、環境効率性や人材開発等に関するベストプラクティスを促進することができる。このレポートの第三部では年金基金が持続可能な経済成長を資金供給の面で手助けしているいくつかの方法に焦点を当てている。

アジアでSRIは広がるのか？

SRIは多くのアジアの人々にとって魅力的な年金の選択肢であり、確定拠出年金や国の年金制度はSRIという選択肢を含むべきである。SRIは世界中でそれまで投資経験のない人々の関心を集めてきた。その多くが中所得者、女性、慈善団体へ寄付を行っているか環境や宗教に関するネットワークに参加しているという特徴を有している。アジアでは多くの女性が就業し、家計を管理しており、環境への関心は徐々に高まりをみせ、また活発な宗教団体も存在している。日本のエコファンドもそのような投資家の関心を集めたのであり、他のアジア地域においても同様の特徴を持った多くの人々が存在している。

年金基金と貧困

アジアでは未だ20億人の人々が一日2ドル以下で生活している。資産規模の大きい年金基金はこの地域のセーフティー・ネット構築へ大きな役割を果たすことができる。SRI投資家やSRIファンドは企業の年金制度に大きな影響を与えることができるが、このような年金制度の受益者は工業化・商業化された地域の労働者やその家族であることには留意すべきである。もちろん、退職した人々は彼らの故郷に戻ったり、そこに住む家族にお金を送ったりすることもあるが、企業年金制度は基本的に都市部における貧困問題の解決に役立つという傾向を持ち、都市郊外の貧困に対しては限定的かつ間接的な影響しかもたらさない。しかし、これは年金基金の給付レベルでの議論である。年金基金の投資方針は郊外や荒廃したコミュニティも含んだ持続可能な経済成長を促すことができる。

年金制度に関する質問を行うSRIリサーチ団体

現在、アメリカのKLD Research & Analytics, Inc.,とカナダのMichael Jantzi Research Associates Inc.の2つの団体がSRIのリサーチ基準として年金支給の適切性に関する質問を行っている。

発行年月日：2002年12月

ご購入については<http://www.asria.org/publications>をご覧ください。

（ASrIA会員：無料 非会員：150ドル）

ASrIAについて

ASrIA (Association for Sustainable & Responsible Investment in Asia) はアジア太平洋地域においてSRIと企業の社会的責任を推進することを目的とする非営利の会員制組織です。現在**ASrIA**の会員数は70を超え、その会員の運用資産総額は2兆ドルを超えます。**ASrIA**はリサーチ結果の公表やイベントの開催等を通じて同地域の**SRI**を推進しています。詳細についてはwww.asria.orgをご覧ください。

¹ United Nations 2001, as quoted in Turner, John. ‘Social Security Development and Reform in Asia and the Pacific’. London: The Pensions Institute, March 2002

² Turner, John. ‘Social Security Development and Reform in Asia and the Pacific’. London: The Pensions Institute, March 2002

³ Environmental Outlook 2001, Asian Development Bank

⁴ ASrIA は2002年の6-7月にヨーロッパ、オーストラリア、北アメリカおよび日本の27のSRIリサーチ団体やシンクタンクを対象に調査を行った。その結果、現在のSRIリサーチにおいて年金支給の適切性にはそれほど焦点が当てられていないことが明らかとなった。調査に回答した16団体のうち、5団体はこの問題を考慮しておらず、3団体は考慮しない決定をしていた。さらに、6団体はこの問題に関する調査を行っているものの、それほど重要視しておらず、わずかに2団体だけが明確かつ積極的にこの問題のリサーチを行っていた。